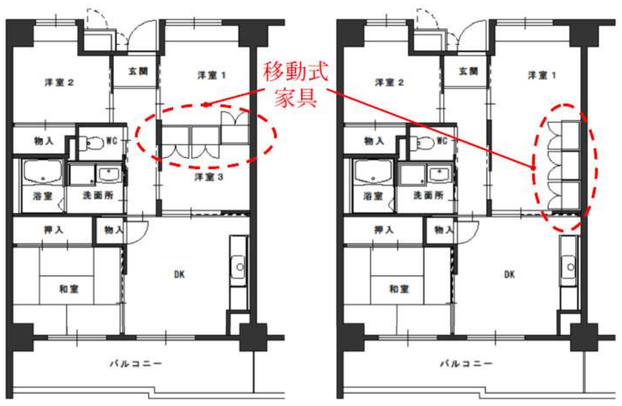
なごみりあ槇島（京都府府営住宅 槇島大川原団地（まきしまおおがはら））における地域に開かれた多世代交流の促進

京都府建設交通部住宅課

・なごみりあ槇島(※)は、府営住宅、交流スペース、社会福祉施設等を一体的に整備・活用することにより、入居者相互や地域住民との多世代交流が生まれ、地域に開かれたまちづくりの推進をめざす新しいタイプの団地です。
・府営住宅では初めてとなる子育て世帯用住宅（期限付き入居）を導入し、団地内のコミュニティバランスの確保を図ります。

※なごみりあ槇島は、広く府民の方々に知っていただくとともに、身近で親しまれる団地となることを目指して公募した愛称です。（「和み（なごみ）」の「エリア」という意味。）

◆子育て世帯用住宅



4ＤＫ　　3ＤＫ

移動式家具

・住戸は、間仕切りを子どもの成長に応じて変更（４ＤＫ⟷３ＤＫ）できる仕様です。

◆みんなで作り育てる芝生広場

ポット苗の植え付け

芝刈り

活用の状況

・地域の皆さんの協力（約１００名参加）のもと、芝生の苗を植え付けました。
・水やりや芝刈りなどは、地域の皆さんに協力をいただきながら、育てていきます。
・入居者と地域住民の安らぎや憩いの場となるだけでなく、園児たちの遊び場、地域サークル活動の場など、地域交流に大きな役割を果たします。

◆まちづくり懇話会(※)の提案

※本団地を核に多様な施設と機能を備えた地域に開かれたまちづくりを目指し、有識者による幅広い視点での意見を取り入れ、専門的かつ総合的に検討することを目的とし設置。
平成２０年１２月から平成２１年３月まで、地域住民等とのワークショップを含め計４回開催。

・基本理念

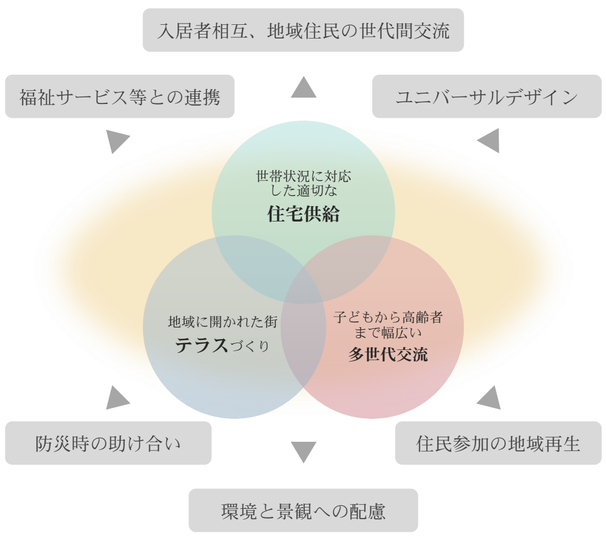
◇時代のニーズの変化に対応できる柔軟性
◇行政と地域住民の協働によるまちづくり

▼

未来指向型団地

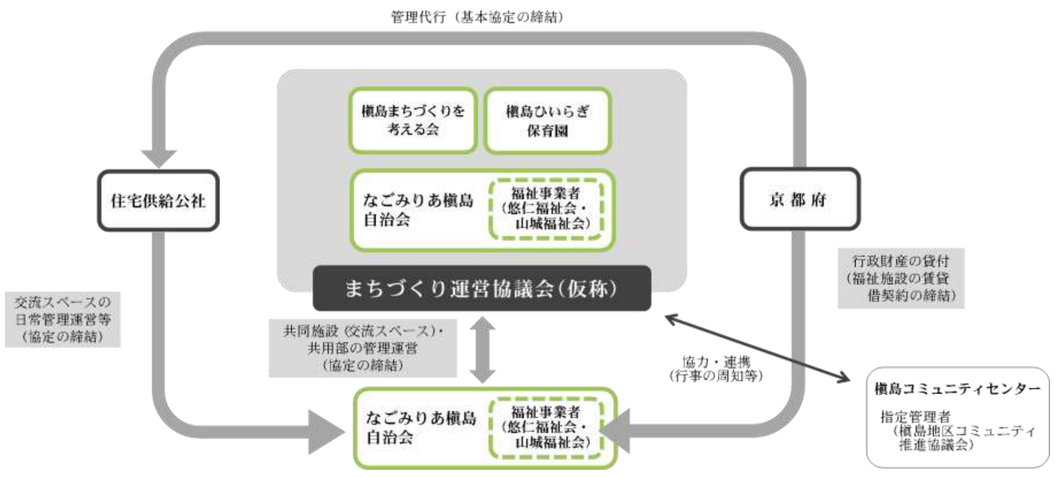
地域住民等参加のワークショップ

・整備ビジョン



◆「まちづくり運営協議会（仮称）」

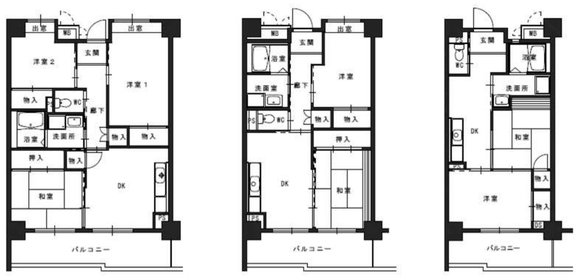
・交流スペース（サロン、テラス、中庭、芝生広場）の活用にあたり、入居者や地域住民が活発に交流できるよう、団地自治会や保育園、地元のまちづくり活動団体を構成員とする「まちづくり運営協議会（仮称）」を設置準備中です。



◆整備概要

府営住宅	・敷地面積　約１３，０００㎡ ・延床面積　約１０，０００㎡ ・構造　鉄筋コンクリート造、６階建て ・事業期間　平成２３年度～２６年度 ・総事業費　約２４億円 ・住戸　１５０戸　３ＤＫ（約６５㎡）６０戸 （うち子育て対応住戸３０戸：間仕切り可変型） ２ＤＫ（約５０㎡）６０戸 ２Ｋ（約４０㎡）３０戸 ・駐車場　１５０台、駐輪場　３００台
福祉施設	・認知症高齢者グループホーム　定員　１８名 ・知的障害者グループホーム　定員　６名 ・小規模多機能型居宅介護等施設　２５名
交流スペース	・サロン（団地集会所）　約１５０㎡ ・テラス　約３００㎡ ・芝生広場　約１，０００㎡ （西側敷地暫定利用）
特徴	地域交流、多世代交流、地域防災への貢献、 まちづくり運営協議会、地元宇治市によるコミュニティ道路

◆一般住戸間取図



３ＤＫ　　２ＤＫ　　２Ｋ

◆施設概要

府営住宅（１５０戸）

１号棟（８２戸）

２号棟（６８戸）

芝生広場から望む

バルコニー手すりパネル

テラス

・入居者と地域住民が自然にふれあい、交流できるウッドデッキ
・面積：約３００㎡

配置図

中庭

・軽運動や小規模な催事など、多目的に使用できる庭
・面積：約６００㎡

サロン

・集会所を地域交流に活用できるサロンとして開放
・面積：約１５０㎡

２階渡り廊下

・１号棟と２号棟をつなぎ見守りテラスとしても活用

コミュニティ通路

・宇治市による歩道の整備

かまどベンチ

・普段は憩いの場所として使用
災害時には「かまど」として炊き出し等に活用

雨水の一時貯留（駐車場）

・地域の浸水対策として、雨水が河川へ流出するのを一時的に抑えるため、降った雨を団地内駐車場に貯留し、時間をかけて排水路に放流

防災トイレ用マンホール

・災害時には「トイレ」として活用できるマンホール

太陽光パネル

・ＣＯ２排出量の削減に寄与

福祉施設

認知症高齢者グループホーム
・定員１８名
・面積：約４４０㎡

知的障害者グループホーム
・定員６名
・面積：約２００㎡

小規模多機能型居宅介護等施設
・複合サービス、訪問看護、訪問介護等
・面積：約２３０㎡

保育所

・宇治市と連携して隣接地に保育所を誘致（民設民営）
・定員１３０名
・面積：１，１００㎡

京都府広報監 まゆまろ